



千歳屋図(若はぎに箒わすれてありにけり) 梶島一藻筆・川喜田半泥子賛 館蔵

没後

50

年プレ企画展

川喜田半泥子と俳句

俳句雑誌

『かいつむり』の仲間たち

2013 4.12[金]—5.19[日]

- ◆開館時間／10時～17時(入館は16時30分まで)
- ◆休館日／月曜(祝日の場合は翌日:4月29日(月・祝)は開館、翌30日(火)は休館
5月6日(月・祝)は開館、翌7日(火)は休館)
- ◆入館料／一般500円[400円] 学生300円(高校生以上) ※[]内は20名様以上の団体料金

公益財団法人
石水博物館

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18
【TEL】 059-227-5677 【FAX】 059-213-5789
<http://www.sekisui-museum.or.jp/>



千歳山荘句会寄書
(短夜を寝ず四五人が絵具血)
一藻、半泥子ほか筆・松瀬青々賛 館蔵



俳句雑誌『かいつむり』 館蔵



石取祭図(ひとつつゝ、灯をいれてゆく十二張)
梶島一藻筆 桑名市博物館蔵



松瀬青々短冊(於:千歳山荘句会)館蔵



猪図(烏うちのいたどりかゝへ来りけり)
半泥子筆 桑名市博物館蔵

「俳句雑誌『かいつむり』の仲間たち」

川喜田半泥子と俳句

没後 **50** 年プレ企画展

本年は当館の創設者川喜田半泥子(1878～1963)の没後50年にあたります。百五銀行頭取ほか企業要職を務める一方、近代陶芸界に大きな足跡をのこした半泥子は、陶芸を本格的に始める前から書画や俳句に親しんでいました。俳句は桑名の梶島一藻(1883～1947)に師事し、俳句雑誌『かいつむり』の同人となつて多くの俳句や句画賛をのこしています。

本展では半泥子の俳句に関する活動、作品や資料で迫ります。俳句短冊や句画賛のみならず、一藻の厳しい添削のあとが見られる書簡や、同人誌の仲間たちと共に描いた楽しい寄書、大阪の松瀬青々(1869～1937)夫妻や桑名の俳友を招いて開いた「千歳山荘句会」の様子などを紹介いたします。

千歳山荘訪問句画巻 梶島一藻ほか筆 館蔵



句入茶碗 銘「月の顔」(早発や盥に月の顔あらふ)
半泥子作 個人蔵

次回展覧会

林原美術館所蔵名品展 ー能装束と色鍋島のコレクションからー

■会 期：2013年5月24日(金)～7月28日(日)

展示替え休館

2013年5月20日(月)～23日(木)



交通アクセス

- JR・近鉄津駅より三重交通バス(久居駅方面行)にて15分、「青谷口」下車徒歩8分
- JR阿漕駅より徒歩12分
- お車をご利用の方
【津市街から】国道23号線「大倉」交差点を県道776号線(久居方面)へ。JRの踏切を越え、約200m 先岩田池手前の細い道(緑の看板あり)を左折。約300m 先左側。(駐車場 15 台)

公益財団法人 石水博物館

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18

【TEL】059-227-5677 【FAX】059-213-5789

<http://www.sekisui-museum.or.jp/>

没後50年プレ企画展

川喜田半泥子と俳句一俳句雑誌「かいつむり」の仲間たちー

平成25年4月12日(金)～5月19日(日)

出品目録

第1展示室

俳句の師梶島一藻

	作品名	俳句・備考	作者	所蔵者
1	石取祭図	ひとつつゝ灯を入れてゆく十二張	梶島一藻筆・自賛	桑名市博物館蔵
2	若葉冷図	若葉冷えたゝみの上の火吹竹	梶島一藻筆・自賛	館蔵
3	芽芍薬図	苔をふむやわらかさあり物の芽に	梶島一藻筆・自賛	館蔵
4	俳句短冊	水仕する背なにあかあか花の炉火	梶島一藻筆	館蔵
5	俳句短冊	砂庭に春をしくゝ小松かな	梶島一藻筆	館蔵
6	梶島一藻書簡(半泥子宛・昭和9年6月21日付)半泥子作の句の評価			館蔵

俳人との交流

	作品名	俳句・備考	作者	所蔵者
7	書「相撲取の句」	肩に着る朝顔染や相撲取	松瀬青々筆	館蔵
8	松瀬青々書簡(半泥子宛・昭和11年12月30日付)時雨蛤の礼ほか			館蔵
9	俳句短冊	勅題 民安く田面の雪を御代の花	松瀬青々筆	館蔵
10	俳句短冊	勅題 蓬萊ハ我か東海の雲に在り	松瀬青々筆	館蔵
11	俳句短冊	良寛か出れハ友ある手毬かな	松瀬青々筆	館蔵
12	俳句短冊	秋の七草今ハ若葉に家み哉	松瀬咏子筆	館蔵
13	俳句短冊	みやぎ野と聞く若萩の大葉哉	松瀬咏子筆	館蔵
14	俳句短冊	当麻寺二つの塔に春嵐	青木月斗筆	館蔵
15	俳句短冊	春の海へ溶岩丘の流れ哉	青木月斗筆	館蔵
16	俳句短冊	五月雨の雲をかけたる檜山哉	青木月斗筆	館蔵
17	俳句短冊	更衣女は後姿なれ	青木月斗筆	館蔵
18	俳句短冊	田うゑ布子着る時黴の匂ひ哉	青木月斗筆	館蔵
19	俳句短冊	日本の賀状にまじる天飛び来て	山口誓子筆	館蔵
20	俳句短冊	風揚げゆく白鷺はとばざるに	山口誓子筆	館蔵
21	『莫加野廬之記』(山口誓子広永薫の句)			半泥子著 館蔵

『かいつむり』と仲間たちー千歳山荘句会ー

	作品名	俳句・備考	作者	所蔵者
22	千歳山荘訪問句画卷	昭和7年7月16日	一藻ほか俳友筆	館蔵
23	『かいつむり』72号	昭和9年7月 半泥子初投句		館蔵
24	『かいつむり』76号	昭和9年11月 半泥子筆「はぜ」が表紙を飾る		館蔵
25	梶島一藻書簡(半泥子宛・昭和9年11月27日付) 半泥子筆「はぜ」の評価など			館蔵
26	『かいつむり』100号	昭和11年10月 「作陶と俳句」を寄稿		館蔵
27	『かいつむり』174号	昭和18年1月 「秋風の～」の句掲載		館蔵
28	千歳屋図	若はぎに簪わすれてありにけり	一藻筆・半泥子賛	館蔵
29	はんど瓶図	うつくしき汐に魚すみ霞む哉	半泥子筆・一藻賛	館蔵
30	カトレア図	うつくしき鳥の来てゐる時雨あと	半泥子筆・一藻賛	館蔵
31	葉鶏頭図	秋晴ハしつかに物を見する哉	半泥子筆・一藻賛	館蔵
32	千歳山荘訪問の礼状(半泥子宛・昭和9年7月9日消印)			一藻ほか俳友筆 館蔵
33	『かいつむり』83号	昭和10年6月 「千歳山荘句会」特集号		館蔵
34	千歳山荘句会寄書	短夜を寝ず四五人が絵具皿	俳友筆・青々賛	館蔵
35	蝸牛図	本あらの小萩の色の茶店哉	松瀬青々筆	館蔵
36	俳句短冊(千歳山荘にて)	阿漕 千鳥ならず塚の夜を鳴け時鳥	松瀬青々筆	館蔵
37	俳句短冊(千歳山荘にて)	阿漕 塚咄しにたちて榎の若葉哉	松瀬青々筆	館蔵
38	俳句短冊(千歳山荘にて)	本あらの小萩の色の茶店哉	松瀬青々筆	館蔵
39	俳句短冊(千歳山荘にて)	招友の字の前に二人静哉	松瀬青々筆	館蔵
40	俳句短冊(千歳山荘にて)	二三日うどんの切れて時鳥	松瀬青々筆	館蔵
41	俳句短冊(千歳山荘にて)	夏虫ハ碧りの玉に鬚付きぬ	松瀬青々筆	館蔵
42	俳句短冊(千歳山荘にて)	みしか夜に話しのうちのいびき哉	松瀬青々筆	館蔵

43	『倦鳥』24－6号	昭和10年6月 千歳山荘句会の報告記事掲載	館蔵
44	『倦鳥』24－7号	昭和10年7月 青々が津で詠んだ16句掲載	館蔵
45	『かいつむり』182号	昭和18年9月 この号をもって休刊	館蔵
46	『冬木会会報』	昭和19年10月 千歳山荘句会記	館蔵
47	『冬木』再刊1号	昭和23年1月 梶島一藻追悼	館蔵

半泥子の俳句と陶芸

	作品名	俳句・備考	作者	所蔵者
48	句入茶碗 銘「冴えかへる」	冴へかへるろくろの土のひきのこり	半泥子作	館蔵
49	黄瀬戸句入薄茶器	みの虫に金ばくつけて遊ぶかな	半泥子作	個人蔵
50	句入茶碗 銘「月の顔」	早発や盥に月の顔あらふ	半泥子作	個人蔵
51	句入片口 銘「瀧津瀬」	若楓瀧津瀬のごと迫りくる	半泥子作	個人蔵
52	竹掛花入 銘「みの虫」	みの虫に金ばくつけて遊ぶ哉	半泥子作	館蔵
53	焼締句入火消し壺	こほろぎやたゝみのうへの火けしつぽ	半泥子作	館蔵
54	俳句短冊	寒菊や光悦の文讀みかたく	半泥子筆	館蔵
55	俳句短冊	花あしびに緋衣の僧正立ち玉ふ	半泥子筆	館蔵
56	俳句短冊	鳥うちの虎杖かゝへ来りけり	半泥子筆	館蔵
57	俳句短冊	吹き上げる風つめたきに鶯が	半泥子筆	館蔵
58	俳句短冊	水や空みねから峰へ霞みけり	半泥子筆	館蔵
59	俳句短冊	川せみの古巢ありけり羊歯の芽に	半泥子筆	館蔵
60	俳句短冊	よき顔の地蔵おはせり夏山路	半泥子筆	館蔵
61	俳句短冊	いせの海若葉楓のうへに見る	半泥子筆	館蔵
62	俳句短冊	室池の月うちくたき物洗ふ	半泥子筆	館蔵
63	俳句短冊	窯つけハかまの中まで秋の風	半泥子筆	館蔵
64	俳句短冊	水引きの茶盃に映る紅葉哉	半泥子筆	館蔵
65	俳句短冊	唐辛子とめさしの影す冬障子	半泥子筆	館蔵
66	志野茶碗 銘「おらが秋」	捨て石二踞して雲見るおらが秋	半泥子作	館蔵
67	灰釉片口 句銘「春雪をのせて野川の薄氷」		半泥子作	館蔵
68	竹茶杓 銘「浦の家」	浦の家せどに白もゝひもゝ哉	半泥子作	館蔵
69	竹茶杓 銘「冬ごもり」	一茎の蘭にしたしみ冬ごもる	半泥子作	館蔵
70	桃花図	浦家住み砂の小松に芯たちぬ	半泥子筆・自賛	館蔵
71	果物鉢図	夕涼うつる柳に灯のまじる	半泥子筆・自賛	館蔵
72	茶碗図	秋風のふくよろくろの廻るまゝ	半泥子筆・自賛	館蔵
73	枯木に鳥図	吹雪道パイプのぬくみ手に残る	半泥子筆・自賛	館蔵

晩年の半泥子と俳句

	作品名	俳句・備考	作者	所蔵者
74	仁和寺三門図	山門の仁王ほゝえむ五月晴	半泥子筆・自賛	館蔵(藤田コ)
75	硯蓋	秋風のふくよろくろのまはるまゝ	半泥子作	館蔵
76	硯蓋	みのむしにきんぱくつけて遊ぶ哉	半泥子作	館蔵
77	俳句短冊	つぎし頃のの山しのばれ柿をもぐ	半泥子筆	館蔵
78	俳句短冊	初めてついた柿三ツなった三年め	半泥子筆	館蔵
79	花瓶図	みしか夜ハかなかなのみに明け二けり	半泥子筆・自賛	館蔵(藤田コ)
80	半泥子行水図	かなかなや行水をする男半泥子	半泥子筆・自賛	館蔵(藤田コ)
81	千歳山と半泥子図	松の間やちぎれちぎれの春の海	半泥子筆・自賛	館蔵(藤田コ)

第2展示室

半泥子の俳画と季節の茶陶－春～夏－

	作品名	俳句・備考	作者	所蔵者
82	椿図	紅白の椿つゝみし紙のぬれ	半泥子筆・自賛	寄託作品
83	紅梅図	ろくろ引く土に声あり水ぬるむ	半泥子筆・自賛	個人蔵
84	竹の子図	どの草のめも貴しと思ひけり	半泥子筆・自賛	館蔵(藤田コ)
85	猪図	鳥うちのいたどりかゝへ来りけり	半泥子筆・自賛	桑名市博物館蔵
86	独乙人花売男女図	春うらゝ土佐繪の人のどの顔も	半泥子筆・自賛	寄託作品
87	半泥子と茶碗図	時計まきたばこくゆるらし梅雨におる	半泥子筆・自賛	寄託作品
88	傘図	かきつばたの紫うかぶ雨の中	半泥子筆・自賛	館蔵

89	薊図	夏草をふみわけ通ふ窯場哉	半泥子筆・自賛	個人蔵
90	桃図	初なりの桃とて胸のときめきぬ ほか	半泥子筆	館蔵
91	南瓜図	風鈴を夜あけの風か鳴らしゆく	半泥子筆・自賛	館蔵
92	百合図	光悦をひるねの夢に伽羅枕	半泥子筆・自賛	館蔵
93	唐津手茶碗 銘「初音」		半泥子作	館蔵
94	唐津手茶碗 銘「福わらひ」		半泥子作	館蔵
95	焼締筒茶碗 銘「福ハ内」		半泥子作	館蔵(藤田コ)
96	縮れ釉茶碗 銘「残雪」		半泥子作	館蔵(藤田コ)
97	四方香合 銘「早春」		半泥子作	寄託作品
98	唐津手茶碗 銘「浅春」		半泥子作	寄託作品
99	井戸手茶碗 銘「みざわ」		半泥子作	館蔵
100	刷毛目茶碗 銘「鮑」		半泥子作	館蔵
101	志野茶碗 銘「雨後の月」		半泥子作	寄託作品
102	白掛茶碗 銘「天の川」		半泥子作	館蔵
103	黒釉茶入 銘「俄雨」		半泥子作	館蔵
104	句入伽羅枕	光悦をゆめにひるねの伽羅まくら	半泥子作	館蔵(藤田コ)

半泥子の俳画と季節の茶陶ー秋～冬ー

	作品名	俳句・備考	作者	所蔵者
105	彼岸花図	小流れに硯あらへバ水とんぼ	半泥子筆・自賛	館蔵
106	干蛸図	月の道ゆけば人なく磯香る	半泥子筆・自賛	個人蔵
107	葡萄図	秋はれやはなれ座敷の掃除する	半泥子筆・自賛	館蔵
108	秋茄子図	秋茄子こそなかなかに親しまれ	半泥子筆・自賛	館蔵
109	茸図	みの虫に金ばくつけて遊ぶ哉	半泥子筆・自賛	寄託作品
110	栗図	竹の影壁にうつして秋ともし	半泥子筆・自賛	館蔵(藤田コ)
111	千歳山真景図	かまつけバ窯の中まで秋の風	半泥子筆・自賛	寄託作品
112	秋草図	秋風のふくよろくろの廻るまゝ	半泥子筆・自賛	個人蔵
113	下駄図	柿食ふて寝ころぶ芝のしたしまれ	半泥子筆・自賛	寄託作品
114	針山図	唐からしとめざしの影す冬障子	半泥子筆・自賛	寄託作品
115	茶碗図	乾山の香炉を得て師走哉	半泥子筆・自賛	個人蔵
116	志野彼岸花絵水指	小流れに硯あらへは水蜻蛉	半泥子作	館蔵
117	句入茶碗 銘「磯の香」	月の道ゆけば人なく磯香る	半泥子作	個人蔵
118	志野茶碗 銘「かりがね」		半泥子作	館蔵
119	呼継茶碗 銘「いざよい」		半泥子作	館蔵
120	粉引茶碗 銘「たつた川」		半泥子作	館蔵
121	焼締茶碗 銘「さび柿」		半泥子作	館蔵
122	胴メ手茶入 銘「まろにえ」		半泥子作	館蔵
123	赤絵紅葉絵水指		半泥子作	館蔵
124	銀泥すすき模様食籠 銘「むさしの」		半泥子作	館蔵
125	灰釉茶碗 銘「寒鴉」		半泥子作	館蔵
126	志野茶碗 銘「あつ氷」		半泥子作	館蔵
127	つぶれ壺 銘「ふくら雀」		半泥子作	館蔵

館蔵品展

	作品名	備考	作者	所蔵者
1	高麗手茶碗 銘「雅茶子」		半泥子作	館蔵
2	灰釉茶碗 銘「これはしたり」		半泥子作	寄託作品

茶席展示室内

	作品名	備考	作者	所蔵者
3	書「鳥道無跡」		半泥子筆	館蔵(藤田コ)
4	灰釉水指		半泥子作	館蔵
5	黄瀬戸薄茶器		半泥子作	館蔵
6	井戸手茶碗 銘「道艸」		半泥子作	館蔵
7	竹掛花入 銘「大黒」		半泥子作	館蔵(藤田コ)

※(藤田コ)＝平成23年に寄贈を受けた「藤田等風コレクション」